



がっこう

学校だより

へんしゅうぶれんらくさき*
編集部連絡先

〒257-0025 秦野市落合500

TEL 0463(81)1429 FAX 0463(83)4118

ホームページ

http://www.hadano-sh.pen-kanagawa.ed.jp/



こんげつ かつようしょうかいごう
今月はICT活用紹介号です！

ICT係

ICT担当教諭 村松 亮

秦野支援学校では、ICT（情報通信技術）を活用した教育に力を入れています。ICTとは「Information and Communication Technology」の略で、情報通信技術を意味します。

とても広い範囲の仕事ですが、主に次の4つの領域にまとめられます。

- ① PCやタブレット、アプリや周辺機器の管理：機器管理を通じて児童生徒の学習環境を整えています。
- ② 児童生徒用アカウントの管理：アカウント配付や再発行、マニュアルの配付をおこない、ICTを活用できる環境を提供しています。
- ③ 教員への研修：教員へ、PCやタブレット、リモートアプリ、視線入力などの使い方に関する研修を提供して、授業の質を向上させるためのサポートをおこなっています。さらに、教員からのICT活用に関する相談を受け、教材を制作したり、機器の使い方について一緒に試行錯誤したりしています。
- ④ リモート授業の支援：リモート授業の際の電話対応やリモート授業参観の手順書作成などの支援をおこなっています。また、校舎ごとの通信状態の改善やリモートアプリと放送機器を連動させて行事や式典の配信視聴覚機器の充実にも取り組んでいます。

私たちの目標は、児童生徒の皆さんがICTを活用して授業や行事に楽しく参加できるような環境を整えることです。ただ、まだまだ認知度が低いため、皆さんからのご意見やご要望を心待ちにしています。

秦野支援学校ホームページ内に「ICTのページ」を作成しました。ICT活用に関する情報や取り組みの詳細を掲載していますので、ぜひご覧ください。

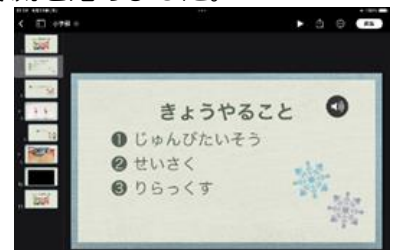


B課程でおこなっているICTの活用例を紹介します。

各授業でKeynoteというプレゼンテーションアプリを使用し、画像や動画、説明等、授業のはじめから終わりまでの流れが分かるプレゼンテーションを作成しています。病棟で学習する児童生徒と学校に登校して学習する児童生徒が同じ活動をおこなうことができます。一人ひとりに合わせて、提示方法を工夫することができるのも魅力です。

教科によってClassroom(オンラインツール)を使い、病棟と学校をオンラインでつないで、画面越しに一緒に授業をおこなっています。音楽では、オンラインツールを活用することで、病棟で学習する児童生徒が集団でおこなう合奏の経験をすることができました。

小学部では、G部門との共同学習もオンラインで継続しています。画面から聞こえてくる、G部門の子どもたちや教員の笑い声などのにぎやかな雰囲気笑顔を見せたり、身を乗りだして画面を見たりするなど、楽しく授業に参加することができています。今年度は、G部門高等部との交流を始めました。



C

Cかもめでは、いろいろな事情や身体的状態の子どもたちに、各々が持つ力を有効に活用して学習を進めたりスキルを伸ばしたりする工夫をしています。

入院生活という限られた環境の中、かもめ学級内だけでは不足する情報を検索して収集したり、映像を確認したりするのにタブレットやパソコンは有効です。特に腕や手指に力が入りにくい症状のある子どもにとっては、画面をタッチすることで操作ができるタブレットや軽い力で操作ができるキーボードはとても便利なツールです。また、最近の小学校中学校の教科書にはQRコードが各所に付いており、それを読み取ることができるようになっているので、そのページにある本文や語句の説明を音声で聴いたり、画面を見ながら単語や英文のリスニング、スピーキング練習をしたりしています。

写真は指や既成のタッチペンではタブレットなどの画面操作をするのが難しい子どものため、握りやすく操作しやすい大型のタッチペンをかもめ職員が作成し、それを使って学習をしているところです。この児童はこのタッチペンを使うことでタブレットを活用した様々な活動ができるようになりました。学習の幅が広がるだけでなく、音声言語による意思表示の代替として、選択肢から選び相手に希望を伝えるコミュニケーションボードにもなっています。

学習教材としての活用や、コミュニケーション力、生活力を向上させること以外にも、毎日の学習やりハビリにちょっと疲れたときのブレイクとして、遊び要素のあるアプリを利用することで、子どもたちもリフレッシュしたりモチベーションをあげたりしながら学習に励んでいます。



アルミ箔で静電気を伝えるタッチペンを使って「こっちがいいな」



F

F 未広のICT活用についてお知らせします。

F 未広では、各クラス専用のタブレット端末があります。令和4年度末には通信環境の再整備をおこない教室でのインターネットがつながりやすくなり、活用の幅が広がり、授業での活用も頻繁におこなわれています。

タブレット端末は、視覚支援に大活躍です。タブレット端末の写真やイラストなどをTV画面につないで大きくして見ることで、活動への見通しが持ちやすくなります。音楽の授業では、音楽動画も合わせた鑑賞で、児童生徒の注目度が音楽のみの時よりもアップしていますし、手話歌の見本を動画で流すこともあります。図工や美術の説明の際には、手元を大きく映した見本動画をTVで見て、活動内容をわかりやすく伝えることもあります。

また、先日の宿泊学習の際には、活動中に写真を撮影しておいて、「夜のつどい」で一日の振り返りとしてスライドショーをおこないました。自分の姿が映ると注目度が高まり、「こんなことがあったね。」「楽しかったね。」「ぼく、がんばった!」「わたし、できた!」と確認できる機会になりました。活動内容をすぐに振り返ることができるのは、タブレットならではの、と感じています。

そして、交流および共同学習でもタブレットが活躍しています。

先日はタブレット端末を持って未広小学校のグラウンドへGo! 理科の「春探し」をする未広小学校の3年生と一緒に、タブレット端末でグラウンドにあるたくさんの「春」を撮影してきました。右の写真は、その時に児童が撮影した一枚です。「この花の名前、なんて言うの?」「ツツジじゃない?」なんて会話を聞きながら、たくさんの春を見つけた子どもたちでした。

